



特集 小学校「子どもの日」 出張イベント.....2

プロジェクトの動き 学校図書室開設.....3

勉強会より 国語の教科書、授業のしかた.....4

国内の活動/イベント.....6

国内の活動/事務局より.....7

寄付者・協力者のみなさん8



授業

写真 押原譲

ラオスの小学校

先生にさされて前に出て、ちょっと緊張。「ブ」と正しく読みました。

ラオス語は母音・子音・声調記号を合わせておよそ60文字あります。すらすらと読み書きできるようになるには手元に教科書がない、となるとハードルは高くなります。

日本語の五十音は最初の文字が複雑な形の「あ」。1年生のとき裏返しに書いてちゃったり、しませんでしたか。

黒板を見つめる女の子の眼差しは文字の向こうに広い世界があることを予感しているよう。

高いハードルだって、そこにわくわくする物語があればぴよんと飛び越えられる。そんな思いで、「ラオスのこども」は図書支援を続けています。

特定非営利活動法人ラオスのこどもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

小学校「子どもの日」出張イベント

6月1日は「国際子どもの日」です。当会のラオス事務所では、2009年5月29日、ヴィエンチャンの中心部から北に20kmほど行ったナーサイトーン郡のナートーン村小学校で、「子どもの日」の出張イベントを行いました。

ナートーン村は、この郡の中でも貧しい村の一つです。ラオス事務所の車が図書への配達などでよく通る道路沿いに小学校があり、一度、立ち寄ったことがありました。図書は12年前に配達されていますが、シロアリに食べられ、表紙しか残っていない状態でした。事務所スタッフは、子どもたちに、今までに経験したことがない体験をさせてあげようと、ラオスの学生ボランティアとともに現地に向かいました。

＜ナートーン村小学校の状況——ブントゥン校長先生に聞く＞

1993年に日本のNGOの支援で校舎が建てられ、小学1年生から5年生まで、生徒数162人（うち女子98人）、少数民族の生徒はヤオ族が10人程度。先生は5人（女性0）。

村で学校に通っていない子どもはいませんが、小学1年生の落第率は約30%。就学前教育クラスは先生が足りないので、やっていない。昨年度中学に進学したのは、70%程度。12km離れた中学校に通う。図書は1997年に国立図書館により配達された。今いる先生で図書のセミナーを受けた人はいない。

親の主な仕事は農業。政府が灌漑をつくり、近くの川の水が減り、水田が減ってしまった。生徒から1年に1人あたり25,000キープ（注）を徴収している。支払えない家庭の生徒が40人以上いる。学校の補修費を集めるのも大変（校舎の老朽化が激しく、雨漏りしている）。学校には浅井戸があるが、使用できたのは1年間だけで、涸れた。支援を受けてトイレが設置された（水がないので使われていない様子）。乾期は水の確保が大変。
（注）ヴィエンチャンの中心部では食堂でのソバ2杯ほどの額

●紙芝居に、「文字カルタ」に、大盛り上がり
校庭の清掃から始まり、歌と踊り、ゲーム、紙芝居と続き、さらに、グループに分かれて絵を描いたり、読書をしたり。

当会は学校に図書を寄贈したほか、お昼ご飯（焼きそば、パパイヤサラダ）を提供し、スタッフなどの寄付によってお菓子、ジュースが用意されました。刷り上がったばかりの紙芝居「これはジャックのたてたいえ」は、スーン（太鼓のリズムにあわせて、みんなで読み合う）で演じるというアイデアで盛り上がりました。東京で試作された「文字カルタ」は、低学年の子どもたちに大人気でした（p4、5参照）。



左：学校をきれいに 右：読み聞かせと子どもたち



●ラオスの「子どもの日」

「国際子どもの日」とは1949年にモスクワで行われた国際民主婦人連盟の会議で定められ、ラオスでは、ほとんどの学校が当日は休校となり、その前日にイベントをします。学校や親が子どもたちにお菓子を用意したり（当会スタッフは娘の学校に30,000キープ寄付したそうです）、子どもたちによる発表会、スポーツ大会などが行われる学校もあり、最近では大人のための発表になって、子どもたちが疲れてしまうという問題もあると、ラオス事務所長は指摘します。地域の経済状況により、何もできない学校は多数あります。ラオス事務所では、子どもたちが楽しめて、気持ちを豊かにできるものをお願い、出張活動を行いました。

プロジェクト の動き

学校図書室開設

2009年3月、ルアンパバン近郊の中学・高校一貫校で、図書室を開設しました。

「ラオスのこども」では、学校図書室開設は、読書の普及に意欲のある学校からの申請をもとに検討・実施しています。先生から寄せられた喜びの文章を紹介します。



タイ

校名：ナーン郡中高校（中学校と高校が一緒になった学校）
所在地：ルアンパバン県ナーン郡パーパイ村
生徒数：1,499人（うち女子671人）
教員数：53人（うち女性26人）
教室数：26部屋（7棟）

「私たちの学校図書室」

ケムボン スッティポン氏（化学担当教員）

ブーボン山から太陽が昇り、山を赤く色づかせる
こちら側の森は霧がかかり、霧が晴れると美しい緑
が見え今日のすべてのものを美しく彩る

私が2004年から2007年にルアンパバン教員養成校で学んでいたころのことです、何もせずに時間を無駄に過ごしたくはないと思い、授業を受けた後、毎日夜8時まで図書室で先生の手伝いをしていました。

そうするなか、私は都市部と農村部との間で、教育の発展に差があることを感じました。卒業後は学んだことを出身の村で実践することが私の役割であり、出身校に図書室をつくりたいと考えました。そして、図書室を設置してくれる機関に申請書を書き、ナーン郡中高校に図書室を設置したいと願い出ました。

返事が来るまで、そのことについては考えないようにしました。送付して2週間たって、「ラオスのこども」から連絡が来ました。

「支援できることになりました。」との返事でした。今までに経験したことがないほど、うれしかったです。



ナーン郡中高校



ケムボン先生

2009年3月10日、「ラオスのこども」の人たちが図書室の設置にやってきました。今まで1冊の本もなかったナーン郡中高校に589冊272タイトルの本を届けてくれ、また「HA (HakArn 学校図書室) 185」という看板を掲げてくれました。

特別だったことは、貸出サービスが始まる前から、図書を借りたい、図書室の会員になりたい、図書室の活動を手伝いたいという生徒たちがいたことです。言うまでもありませんが、ナーン郡でのこの動きは、私たちの地域の教育にとって歴史的なことになりました。掲げた看板は、私と先生方皆の成功の証です。ある人は図書室を見て、小さいと思うでしょう。でも、私にとっては他にかえることのできない誇りであり、すばらしい価値あるものであり、人生で初めて願いがかなったことなのです。



図書室の前で

国語の教科書、授業のしかた——勉強会より

話し手：チャンタソン・インタヴォン（共同代表）

猿田由貴江（事務局スタッフ）

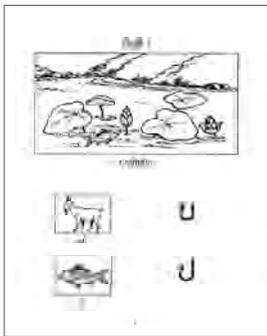
「ラオスのこども」が第2日曜日に開催している勉強会。2009年5月は「国語の教科書」をとりあげました。ラオスでは1年生で進級試験に通らない子どもが少なくありません。その理由も見えてきました。

ラオスの小学校の教科書は、カラー化が進みつつあります。しかし、子どもの数に対して、絶対数が足りません。今なお、先生の分しかない学校や、2、3人で一冊を使うという学校が数多くあります。

【1年生】

ラオス語には子音、母音がそれぞれ30近くあり、声調記号が4つあります。最初は子音「ポー」から習い、1年間かけて一通り文字を習います。覚えやすいように（そらでいいやすいように）短い詩で書かれています。

しかし、子音、母音がたくさんある中で、例えば「ト」という音は、どれとどれを組み合わせるのが正しいのか、どう使い分けるのか、文法の教育も整っていません。あるベテランの先生は不用になった段ボールに文字や絵を描いてわかりやすく教えていました。しかし、多くの場合、ラオスでは1年生を教えるのは新任教員です。経験不足から分かりやすく教えられない場合も少なくなく、1年生は最もつまづきやすい学年となっています。



1年生の教科書

近年、ラオスの教育省は、小学校に入学する前に幼稚園で文字を覚えさせる就学前教育を奨励しています。ヴィエンチャンでは、子どもたちを机に貼り付けて、ひたすら文字を教える幼稚園が増える一方、大きな町以外には幼稚園はほとんどありません。

【2年生】

1年生のおさらいをしつつ、ややまとまった文章を習います。「私は学校に毎日行きます。怠ける気はありません。学校はとても楽しく感動します。学校に来ない怠け者は悪い遊びばかり上手で頭が悪い」と、びっくりすることも書かれています。言わんとするところは、ちゃんと学校に行きましょうということなのです。



2年生の教科書

ラオス語らしいのは、韻を踏んだ文が随所に盛り込まれていること。内容では、雨季には蚊に気をつけ、乾季には火の元に注意をなど、また、文化習慣、目上を敬うことなど、さらには衛生、水稲などの農法、煙草・薬物の危険性も書かれていて、子どもを通した家庭への成人教育も視野に入れていることがわかります。

【3～5年生】

各学年で民話がいくつか登場します。3年生の「ウサギとカメ」などイソップのほか、ロシア、カンボジアなど。5年生の教科書には、日本の民話として「なぜエビの尻尾はまがっている？」というのがあります（日本ではあまり知られていないようですが）。



3年生の教科書

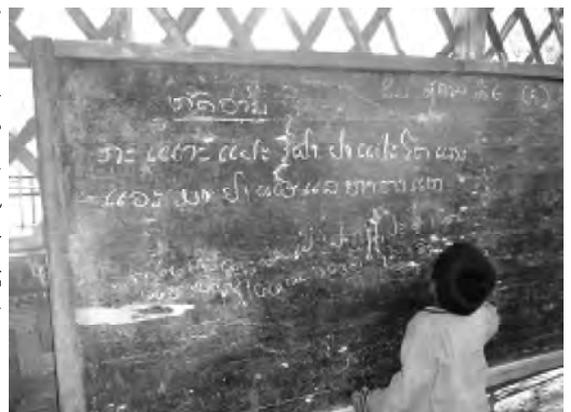


5年生の教科書

【副読本など多様な支援】

教科書が行き渡らない、先生が教え方を身につけていない、などの理由で、授業は、先生が教科書に書かれていることを黒板に書き、書き写させ、暗唱させるというものになります。1つの課を進むのに時間がかかり、手元でじっくり読めないの、読む力もなかなかつきません。

「ラオスのこども」は、子どもたちが好きな本をゆっくり読めるよう、副読本として図書を提供して、図書室開設を支援しています。また、子どもが楽しく口にすることができる美しい古典の詩を本として復活させたり、ラップ・ミュージックのリズムでうたうなどの新しい視点で、子どもたちが豊かなラオス語にふれる機会を広げる試みをしています。



「ラオス語カルタ」、子どもたちの反響

日本でのボランティア、勉強会とラオスの小学校をつなぐ



カルタづくりを説明するスタッフ



カルタづくり

ハガキ大のカードの片面に文字、裏面にその文字が頭文字になっている動物などの絵となっている「ラオス文字カルタ」を、ボランティア活動として、沖電気工業のみなさんに作っていただいたのが2008年7月です（「ラオスのこども通信」44号p4に掲載）。「ラオス語カルタ」として、想像をふくらませながら、子どもたちと一緒に楽しもうと、さらに2009年5月10日の勉強会でもボランティアのみなさんと作って、5月29日の「子どもの日」イベントで、小学校に持って行きました（今号p2参照）。

ラオス事務所のスタッフが、文字の面を見せて、「トーニャン？（何の動物？）」と聞くと、子どもたちは口々

に、動物の名前を言います。そして、どきどきしながら、絵の面を見て、「当たった！」「違った！」と大はしゃぎ。文字を習ったばかりの1、2年生は興奮して、どんどん前に迫ってきました。

「同じ子音でいろいろな絵があると、いろいろな単語の勉強になる」、「就学前の子どもには、まず絵を見せて、これは何ですか？と聞き、子どもたちに答えてもらう。そして先生が再び発音して単語を音から学ぶ活動もできるね」とラオス事務所のスタッフからは、アイデアが次々に出てきました。今後、さまざまな場で利用していければと考えています。日本でのボランティアや勉強会とラオスの小学校が楽しくつながっています。



盛り上がるカルタ



子どもたちに質問するラオス事務所スタッフ

出版プロジェクト

紙芝居 『これはジャックのたてたいえ』

絵：やべ みつり

ラオス語訳：ドアンドゥアン・ブンニャヴォン

普通サイズ 2,000部 / 学習院女子大学

ハガキサイズ 5,000部 / 沖電気工業株式会社OK愛の100円募金

ストーリーは、イギリスの伝承童話、マザーグースの積み上げ話。絵本作家のやべみつりのさんの絵で出版されている日本



語版（出版元：トル出版社、日本語訳：りゅうさわともこ）をもとにラオス語版を出版しました。ドアンドゥアンさんの翻訳は、リズム感のある、子どもたちにも覚えやすい文章も魅力です。



刷りあがったばかりの紙芝居を小学校での出張活動に持っていきました（今号p2参照）。

「これははやおきのおんどり。ジャックのたてたいえにねかせたむぎこうじを たべたネズミを・・・」

この紙芝居は、いろいろな使い方ができそうです。

国内の活動・イベント

2009年4月～6月

イベント

●食べるボランティア

5/21 リコーテクノシステムズ㈱／東京・台東区

ランチタイムを利用して、17階リフレッシュエリアにて、社員向けにラオスコffeeとナムワーンを提供。朝から社員のボランティアの皆さんとともに準備をし、事前予約のあった100食分を作りました。ナムワーンとはバナナ、タピオカ、ココナツミルクの入った温かいデザート。ナムワーンを受け取った社員の方たちは「え？あたたかいバナナ?!」とはじめは驚いた方も多かったようですが「食べてみたら美味しかった!」と感想を聞きホッと胸をなで下ろしました。お手伝いして下さったボランティアのみなさん、食べるボランティアに参加して下さったみなさん、ご協力ありがとうございました。



●ICBA（国際児童文庫協会）30周年記念講演会

6/19 東京・渋谷区

チャンタソンさんが語る子育ての体験の中からラオスの子どもに絵本を送りはじめ、日本語の本をラオス語に訳し、本に貼り付ける活動をはじめ、さらにラオス語の本を出版するようになった経緯等を、みな大変熱心に聞いていました。

最も印象に残ったのは、「子どもの頃、母国語の絵本や本を読んだことがない。」と言う一言でした。私は小さい時、絵本や本に囲まれているのは当たり前で、日本語以外の言語で絵本を読むことは考えたことがありませんでした。「ラオス語の本がないためにフランス語で童話などのお話を読んでいた。」という話に、本に接触する機会がない環境とは一体どのようなものなのだろうかと思いました。同時に自分たちの環境がいかにかに恵まれているかを知りました。多くの子どもたちにとって本は大切なものであり、読む機会を与える環境が必要であると実感した講演会でした。（東京事務所インターン 広瀬未奈）

●「国際交流の日」 交流・体験授業

6/19 町田市立真光寺中学校／東京・町田市

毎年、学校行事の1つとして、他国の文化・伝統・習慣などを学ぶ中で、地球市民としてお互い尊重し認め合う態度を育てることを目的とした「国際交流の日」に取り組んできています。当日は国際交流ラウンジ、大学、NGO等11団体28名が来校し、生徒たちとともに世界の国々について学ぶ時間を

過ごしました。当会からは事務局スタッフと学習院女子大学開発教育チームの7名が、2年生35名と一緒にラオスについて勉強しました。生徒たちは、開発教育チームが独自に作ったワークショップ「なぜテレビがほしいの?」にも積極的に参加し、ラオスを少し身近に感じてくれたような気がします。今回のことをきっかけに、今後もラオスや世界の国々に目を向けてもらえたらと思っています。



●織物展「ラオス ～暮らしに生きる織物～」

6/25-29 ㈱コトブキD.I.センター／東京・港区

(株)コトブキのご厚意により会場をご提供いただき、5日間ラオスの織物展を開催しました。レンテン族、ヤオ族、タイルー族、ラオトゥン族、ラオ族等の民族衣装の展示、小物、シン(スカート)、ショール等の販売、そして土日には「小さな伝承者たち～女の子と織物～」 「自然からの贈り物～人々の生活と織物～」をテーマとしたチャンタソンによる講演会を開催。「織物には触れる機会があるが、ゆっくり話を聞いたことがなかった」という来場者も多く、熱心に話を聞いていた様子でした。



ラオス語絵本プロジェクト

●ラオスの絵本カフェ

～お菓子とコーヒー、翻訳絵本づくり～

6/26 大田国際交流週間2009／東京・大田区

6月20日(土)～28日(日)に行われた「大田国際交流週間」のひとつに「ラオスの絵本カフェ」を開催し、参加しました。当日は10名の参加者が、ラオスの子どもの教育状況についての話を聞いたり、実際に翻訳シートを絵本に貼る体験をしました。また、今回はラオスコffeeとタマリンドキャンディ以外に、手作りのココナツミルクゼリーも試食してもらい、大変好評でした。



サバイディピーマイ パーティ09

4/18 主催 ラオスのこども

今年で27回目を迎えたラオスの新年（ピーマイ）を祝うパーティーが大田区池上会館で開催されました。当日参加者126名に加え、料理・司会・会場準備等を手伝ってくれたボランティア46名、ラオスからの留学生等200名近い方々がこのイベントに参加しました。出来上がったばかりの紙芝居の実演、航空チケット(ラオス国営航空ご提供)の当たるクイズ、伝統舞踊の披露等、参加者自身が楽しめるプログラムは、あっという間の2時間半でした。初めての参加者が半数を占め、「いろいろな人に会えました」「来年もまた来ます」そして一番多かったのが「料理が美味しかったです」と様々な感想が寄せられました。集まった参加費は、活動に役立らせていただきます。



ラオス事務所に念願の新車が届きました！

ラオスのこども通信42号で新車のご支援をお願いしましたところ、これまで子ども文化センターなどで協力いただいているACA-アクアより新車購入費用をご寄付いただきました。

それまでの車は修理を繰り返し、地方出張ができなくなっていましたので、ご支援の知らせにラオス事務所皆で大喜びしました。関係省庁への手続き、車の発注・輸入・保険加入手続きなど想像を超える時間がかかりましたが、1月に納車され、2月から使用開始となりました。学校図書室の開設や出張活動などフル稼働で、北から南まで当会スタッフが直接、図書を子どもたちに届けています。



国内の活動・事務局より

2009年4月～6月

〈東京事務所の動き〉

- 4月
4/11 理事会、運営会議、勉強会
4/18 サバイディー・ピーマイ・パーティ
- 5月
5/10 理事会、運営会議、勉強会
5/14,19,26 NPOのための広報セミナーに参加(深山)
5/21 リコーシステムズ(株)にて、食べるボランティアイベント
5/24-6/4 ラオス出張(猿田)
- 6月
6/14 理事会、運営会議
6/19 町田市立真光寺中学校・交流体験授業
6/25-29 「ラオス～暮らしに生きる織物～」開催
6/26 大田国際交流週間2009 ラオスの絵本カフェ

新人スタッフからのご挨拶

初めまして！4月から東京事務所のスタッフになりました深山知美です。多くの方が会に関わり、活動を支えて下さっていることをこの3ヶ月、様々な場面で感じています。ラオスの子どもたちのために、そしてより多くの日本のみなさんにも会を知ってもらえるよう、みなさんと一緒に活動していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します！

〈ラオス事務所の動き〉

- 4月
4/24 Global Campaign for Education イベントに参加
- 5月
5/4 チョンペット小学校(HA123)、シーサタナークCCC<ヴィエンチャン都>への出張活動
5/5 ノンボン中学校(HA83)<ヴィエンチャン都>への出張活動
5/7 ナートン小学校、ラックハーシップソン中高校(HA134)<ヴィエンチャン県>訪問
5/8 チョンペット小学校(HA123)へのフォロー活動
5/20-21 チャンサヴァン小学校<ヴィエンチャン都>学校図書室(HA188)開設
5/23-24 パックボーン小学校<ヴィエンチャン県>学校図書室(HA189)開設
5/25-26 サナカム小学校<ヴィエンチャン県>学校図書室(HA190)開設
5/29 子どもの日イベントの実施<ヴィエンチャン都>(p3参照)
- 6月
6/7 事務所で読書会を実施
6/10-12 大学生を対象に図書の登録セミナーを実施
6/5 JICafeにて、出版図書の展示
6/10 JICafeにて、読書推進活動を実施
※HA=ハックアーン(学校図書室) CCC=子ども文化センター
JICafe=Lao-Japan Communication Plaza